



丁寧な作業で高品質なEMボカシとダンゴを作る 茨城県石岡市 盲重複障がい者施設「光風荘」

U-ネットは、今年度事業計画の一つとして福祉活動支援～障がい者施設や介護施設への EM 技術を活用したボランティアの支援活動をすすめている。各地での実践例として、前号に続き茨城県の障がい者支援施設「光風荘」取材した。

常磐線石岡駅から北西へ約3kmに位置する盲重複障がい者施設の光風荘(須賀田毅理事長)は、石岡市谷向町の1万5千㎡の敷地に建つ視覚障がいと他の障がいを併せ持つ方々が利用する障がい者支援施設。現在の施設利用者は約80名、臨時も含めて70人の職員で運営している。

平成18年に施行された障がい者自立支援法により、障がい者の自立を促す方向に国の法律が変わってきたので、施設でも稼げる作業を取り入れるようになってきた。お金を稼ぐというだけでなく達成感や共感と言った心の豊かさを求めてのことだと思う。これにEMが貢献している現場モデルの一つとして光風荘がある。U-ネット茨城県顧問で「石岡緑の会」会長の鈴木せつ子さんは、この施設創設以来の理事であり、施設へのEM導入を促し、EMボカシやダンゴの制作販売を進めた功労者。3月初旬、鈴木さんのご案内で施設でのEM活用状況取材した。

この施設にはEM培養装置「百倍利器」があり、効率的に大量のEM活性液が作られている。この活性液を利用しての清掃、浄化槽への投入や野菜作りもされているが、注目すべきは販売用で大好評の高品質なEMボカシとEMダンゴ作りがなされていることだ。ボカシ作りの現場を見せていただいたが、作業の一つひとつがとても丁寧なのだ。ボカシの材料は、米ぬか、もみ殻、EM活性液だが、米ぬかを細かい目のフルイでふるって、より均一に選別されている。もみ殻は薄く広げてもみ殻以外の藁の穂なども取り除き100%に近いもみ殻だけに選別されている。ボカシにするには、これら選別された米ぬかともみ殻にEM活性液を混ぜるのだが、施設利用者の皆さんの丁寧で長い時間をかけての作業で均一に混ぜられた後、樽に詰められ発酵のため数か月寝かされる。そしてJAやホームセンターなどで生ゴミ堆肥化の材料として販売され、環境意識の高い一般の方々に使われて環境保全に役立っているのだ。



EMダンゴも発酵のため寝かせてある場所に案内され話を聞いたのだが、これもまた、とても丁寧な作り方だ。作る際には、1つの重さが240gと計られて、きれいに真ん丸に丸められる。数か月の発酵期間を終えた製品は、白カビで覆われた白い野球ボールのようで、同じ大きさに揃えられている。このダンゴは、環境浄化ボランティア団体に販売され、団体が東京の日本橋川や皇居外濠へ年に数回に分けて投入され、河川や東京湾の環境改善に役立っている。

また、光風荘利用者、ボランティア、公園を利用するスポーツ愛好者の方々に構成されている石岡の自然を守る会が石岡市の柏原池公園の池に毎年、春先から晩秋までの期間、毎月1500個のダンゴと活性液60ℓを投入して環境浄化を進めると共に地域の連携も深めている。因みに光風荘の新規職員は、仕事が楽しいと言う。事実、途中退職者はほとんどいない。人事管理体制が良いのだろうが、EMは人を穏やかにすると言われているので、これも一因かもしれない。

(以上取材:理事 広報担当 大山正治)

写真: 光風荘利用者の皆さんによる手作業で丁寧に長時間かけたボカシ作り

Information

【イベント】EMで発酵BIG BANG in 刈谷(予告)

みんなで「発酵」し合える楽しい交流イベント「EMで発酵ビッグバン」が今年も6月に愛知県刈谷市で開催されます。

日程: 2017年6月17日(土) 会場: 刈谷市総合文化センター 愛知県刈谷市若松町2-104